

◆優秀賞◆

「ソーシャルキャピタル論を応用したコミュニティの再構築」

人文学部社会科学科 3年

海老根由美

地域コミュニティは、地域住民の生活を安全かつ快適にする目的で、諸活動に加え、地域住民間の絆の醸成という重要な役割を果たしてきた。しかし、一般的には、高度経済成長を経て、多様な要因が地域コミュニティに影響を与え、衰退の一途を辿っている。東日本大震災後には、地域住民間で絆が育まれてきた茨城県北茨城市大津町では、助け合いの行動がみられた。災害発生後には、混乱状態に陥ると考えられる行政による「公助」は期待できず、こうした住民同士の助け合いである「共助」が有効である。従って、地域住民間の絆を醸成する役割を持つ地域コミュニティは今後も必要であると考えられる。被災地における調査においては、震災前には低下しつつあった災害時の近隣住民への信頼は、震災後に上昇したことが判明している。このように震災を契機として高まった意識を、地域コミュニティの活性化につなげていくことが求められる。

本論文では、ソーシャルキャピタルという概念を利用し、実際のコミュニティである「カミスガプロジェクト」に焦点を当てながら、地域コミュニティの活性化を検討する。